


1 研究主題

自ら考え 共に学ぶ 児童の育成
 —各教科の「見方・考え方」を働かせる学習過程の工夫—


2 研究の具体

【学校教育目標】
 豊かな心を持ち 自分で考え たくましく
 主体的に活動する子供の育成

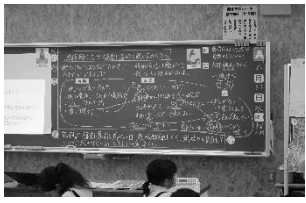
① 挑戦意欲や知的好奇心をかき立てる「課題の設定」により、見通しを持って主体的に学ぶ意欲が喚起できるだろう。



② 効果的かつ必要感のある「交流の場の設定」により、思考を広げ・深める学習活動を想像できるだろう。



③ 学習活動を通して生まれた気付きや学習の成果を実感させる「振り返り活動」により、学習内容を浸透できるだろう。



④ 話し合い活動を活性化させるための「学びの基盤づくり」により、学びの環境が整備されるだろう。

<p>「支持的風土づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よいところ見つけ ・なかよしタイム ・ペア活動 	<p>「基礎学力の定着」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の時間・水曜勉強会 ・ももんタイム ・学習がんばり週間 	<p>「めあてに向かって頑張る姿勢」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立腰タイム ・がんばりカード ・給食全部食べようデー
--	---	--

3 成果と課題

- 児童の思考や本時の流れが分かるような板書にすることによって、児童にも教師の意図する「見方・考え方」を感じ取らせることができる構造的な板書が意識できるようになった。
- 教科の「見方・考え方」を働かせることを教師が意識することで、単元や本時において学ばせるべき内容や、振り返る内容が明確になった。

● 今後は、教師が意図した力が身に付いているかどうかを児童が実感できるような有効な振り返り方を見付けていく必要がある。

